

科目名（英文表記）	ケーススタディⅡ（Case StudyⅡ）		
科目区分	実践科目	単位数	2 単位
担当教員名	堺昌彦・玉井健一 ・猪口純路	ナンバリング	MBA_P_CS 6421
研究室番号	(堺) 4 4 4 (玉井) 4 1 6 (猪口) 3 3 1	研究室電話番号	(堺) 2 7 - 5 3 5 2 (玉井) 2 7 - 5 3 3 2 (猪口) 2 7 - 5 4 9 7
Eメール・アドレス	(堺) msakai@res.otaru-uc.ac.jp (玉井) ktamai@res.otaru-uc.ac.jp (猪口) inojun-u@res.otaru-uc.ac.jp		
授業の内容及び方法： 次頁以降に記載			
授業の目的： <p>本授業では、ケーススタディⅠで習得した方法論を発展させ、グループワークを活用しながら、より高度なケース分析スキルを習得する。</p> <p>ケース分析の対象として3つの企業を取り上げ、背景、環境の異なるケースをグループ単位で分析する。この演習を通じて基本科目群（会計・財務、マーケティング、組織、戦略）における分析ツールのケースへの応用力を高める。また推奨戦略の財務的評価を行い、推奨戦略の経済性を判断する。グループ・プレゼンテーションのスタイルをグループ対抗のディベート型にすることでコミュニケーションスキルをさらに磨く。</p>			
授業の到達目標： <p>営利・非営利を問わず、分析した企業の問題点を解決するための戦略を立案し、投資の意思決定を行うべきか否かを決定する過程に関与する職位に従事する者として、意思決定を行うことができるようになる。</p>			
使用教材： <p>小樽商科大学ビジネススクール『MBAのためのケース分析（三訂版）』同文館出版、2020年。 ケースは適宜、manabaよりダウンロードすること。</p>			
成績評価の方法： 以下の点に基づいて成績評価を行う。 出席率 10% 課題 50%（ケースレポート） 授業への参加度 40%（発表・ディスカッション等） なお、締切後に提出された課題は採点しないので、十分に注意すること。 評価に不服のある場合には、不服申立書を以て教務委員長に申し出ること。			
履修上の注意事項： ① 5時限以上欠席すると自動的に不可となる。 ② モジュール毎に詳細なスケジュールを配付する。 ③ すべてのケースレポートを提出しなければ、単位認定の対象とはしない。			